

表現指導の実際とその考察

―発想を耕し、枠組みを利用した小論文の指導について―

渡 辺 春 美

はじめに

高校生が文章を書くとき、どのようなことに困難を覚えているのであろうか。高校二学年を対象とした調査によれば、①内容・材料の乏しさ、②文章の展開―ア・書き出し方とまとめ方、イ・表現内容の整理、ウ・構成・組み立て、段落分け、エ・文章の転換・展開、③ことば―ア・適切なことば、イ・語彙の貧しさ、④その他―表記（句読点）、時間、評価などが挙げられている（注1）。

本稿では、これらの、高校生が困難を感じていることを踏まえつつ行つた、三学年三クラスを対象とした小論文指導の実際（注2）を紹介し、試みた指導の有効性を検討したい。小論文指導の実際は、①考えるヒント―発想を耕す―、②小論文を書く、③ディベートから小論文へ、と三つに分かれているが、本稿では、この内、①考えるヒントと、②小論文を書くとを中心に紹介し、以下に考察したい。

一 小論文指導の概要

(一) 小論文指導の工夫

1 書くための基盤作り―考えるヒント

毎時間、新聞の切り抜きを配布し、初めに一〇分程度時間をとって、授業者が音読した後、一〇回分の感想欄を印刷した用紙（B4）に感想を三行で書かせる。ねらいは、次の四点である。①様々な問題に対し関心を広げ、考えさせ、問題意識を引き出す。②書くための材料として蓄積する。③三行の感想を書かせることで、書き慣れさせる。④漢字を覚え、言葉を増やす。これは、高校生が文章を書くときに覚える困難の「①」「③」に対応するものと考ええる。

2 書くための方法

テーマ（主題）の発見、取材の方法、小論文の構成法、小論文作成のチェックポイントについて、プリントを用意して説明した。この内、①小論文の型を、反対意見考慮型、自説主張型、比較考察型の三型に分け、それぞれにア・接続のことは、イ・展開の文型を用意し、具体的に、接続のことはと文型に導かれて小論文が書けるようにした点、②三型に基づいて小論文を書くための構成表を作成し、取材を含め、小論文を構想させた点に工夫の一端がある。これは、文章を書くときの困難の「②」に対応するものと考ええる。

3 小論文の評価

原則として四名で一グループを作り、グループ内で評価を行わせ、優秀論文を一編推薦させた。評価は、いくつかの観点に基づき点数化させ、併せて短い評言を書かせた。他の生徒の小論文に学ばせるとともに、評価

の方法をも学ばせることをねらいとした。

(二) 小論文指導の概要

1 考えるヒント―発想を耕す―

二学年時に、次のことを試みた。

①「新聞コラム切り抜き―問題意識を持つために」―夏休みの課題として、一〇のコラムの切り抜きとコラムに対する疑問をそれぞれに対し三点書かせた。

②「考えるヒント―発想を耕す」―一九九七年九月五日から一九九八年二月二三日まで二四回、国語の時間(二単位)の最初に新聞の社説、コラム等の記事を切り抜き、プリントして生徒に配布し、授業者の音読の後、五、六分をかけて三行の感想を書かせた。

③「新聞コラム切り抜き―問題意識を持つために」―冬休みの課題として、五つのコラムの切り抜きとコラムに対する疑問をそれぞれに対し三点書かせ、さらに、その中から一つのコラムを選び、「コラムに対する私の意見」として、題名をつけて三〇〇字で意見を述べさせた。

二学年の最後に授業の感想を書かせたが、「考えるヒント」の試みに、多くの生徒が言及していた。「二五回繰り返したので、疑問や感想をもつ力がついた気がする」、「文章を書く力がついた」、「はじめの頃は、時間がかかっていたけれど、最近ではすらすら書けるようになってきました」、「さまざまな社会の出来事や問題など視野が広がった」、「家でも新聞を読む習慣がついた」などの記述が見出された。授業への集中力も高まった。そこで、三学年においても、以下に述べるように、学年担当者(三人)で継続することにした。

2 小論文を書く

①小論文を書くための方法を理解させ、②その方法を適宜利用し、小論文を書けるようにさせるとともに、③互いの小論文を評価しあい、優れた小論文に学ばせることを指導目標として、授業を展開した。

小論文を書くための方法として、①テーマ（主題）の発見、②取材の方法、③小論文の構成法、④小論文作成のチェックポイントの四点について指導した。

書くにあたっては、まず、テーマを明確にさせた。ついで、構成の型を選ばせ、構成表に書き込ませた後、記述させた。小論文の評価は、観点を決めてグループごとに評価させ、グループ推薦の優秀作一編を選ばせるという方法で行わせた。グループ内での相互評価の後、全てを提出させ、指導者が読み、適宜朱を入れるとともに、評言を書き入れて返却した。

3 デイベートから小論文へ

「デイベートで鍛えよう」と題して、授業を展開した。次の学習目標を生徒に示した。①自分の主張を根拠を明らかにし、筋道立てて述べることができるようにする。②情報・資料を収集し、目的に応じて活用することができるようになる。③他者の主張を聴き論点をとらえ、批判できるようにする。④グループで協力して準備し、論戦に積極的に取り組むようにする。⑤反論を予想しながら、根拠に基づいた論旨の明確な小論文が書けるようにする。以上の五点である。

授業は、①デイベートの説明、ロールプレイ、学習計画（目標・グループ編成・論題の選択）、②デイベートの準備（情報の収集・立論の構想・反論予想とその対処）、③デイベート、④小論文、という順に進んだ。デイベートは、一クラス八グループ（一グループ五名）で行った。論題は、次のとおりであった。三組（少年

法は改正すべきである。〈癌は患者に告知すべきである〉、五組〈凶悪事件に於ける少年容疑者の写真の掲載は許されるべきである〉、〈主婦を女性の仕事として社会的に認めるべきである〉、九組〈受験勉強は人間教育として有意義である〉、〈癌は患者に告知すべきである〉。

二 小論文の学習指導の実際―「考えるヒント―発想を耕す―」の場合

(一) 考えるヒント(切り抜き) 一覧

「考えるヒント」は、二学年時での試みを踏まえて、三学年の担当者が協力して、次のような切り抜きを用意し、毎時間、初めの約一〇分をとって、授業者の音読の後、三行の感想を書かせるというようにして行った。

- | | | | | | |
|----|-------|--------------|----|-------|------------------|
| 1 | 四月一四日 | 「なにげに」桃の節句 | 11 | 五月一五日 | 敬語の散歩道 |
| 2 | 四月一六日 | 行動する若者たち | 12 | 五月一九日 | 男らしさにこだわらず楽に生きよう |
| 3 | 四月一七日 | 自己実現への道 | 13 | 六月二日 | 途上国からの「公害」研修生たち |
| 4 | 四月二一日 | 考える力を大切に | 14 | 六月四日 | 「伝統」固執は時代遅れ |
| 5 | 四月二三日 | 強くなるヒロインたち | 15 | 六月五日 | 猫皮三味線 |
| 6 | 四月二八日 | 豊かな食の基盤は危うい | 16 | 六月九日 | スミス氏の憂い |
| 7 | 四月三〇日 | なぜ不条理だけが残った | 17 | 六月一日 | 風のゆらぎを感じたい |
| 8 | 五月一日 | 患者の参加で質の向上を | 18 | 六月二日 | 「ぞうさん」の贈り物 |
| 9 | 五月八日 | 自分出せぬ「良い子」たち | 19 | 六月八日 | 首長・議員に暴行・脅迫連続 |
| 10 | 五月二二日 | 「悪者たたき」流されて | 20 | 六月二六日 | 性別にとらわれず |

(二) 切り抜き例

「考えるヒント」として配布した新聞切り抜きの内、最初の二つを掲げれば、次のとおりである。

1 「なにげに」桃の節句

ばさばさに乾いてゆく心を / ひとのせいにはするな / みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを / 友人のせいにはするな / しなやかさを失ったのはどちらなのか / (中略)

自分の感受性くらい / 自分で守れ / ばかもものよ

「自分の感受性くらい」と題する茨木のり子さんの詩だ。



電車の席で、隣の女子高生がバインダー手帳にカラーペンでしきりに書き込んでいる。シールやプリクラがにぎやかに張つてある。うわさに聞く、これがはやりの「濃密手帳」か。

「回転ずしに行った」などとその日の出来事を単純に記すのであるらしい。びっしりと羅列し、濃密を競う。かわいく記録したいから、シールなどで飾る。

「いましかない」のだから、いまの自分をめいっぱい記録しておきたい。「思い出をつくるしか存在証明の方法がないから」と解説する声がある。

「思い出」にしか水やりしない、というのだとしたらさびしくはないか。

女子高生の間ではチョベリバなんていう言葉は、もう死語だそうだ。「なにげに」は生き残って、定着した。「なにげに彼の話を聞いたらすごく重かった」。なにげなく、から発したものらしい。何事にせよあまり期待していない気分を表している。

「きょうは、ノーフレ」という。ノーフレンドといっても、帰り道に一緒にコンビニをのぞくほどの相手がない、といった意味だ。ひとりは嫌だが、かといって強烈に人との関係を求めているのでもない。つまりは、

友人のせいにもしていない。

みずみずしい年代の、このばさばさに乾いた心持ち。

自分の感受性くらい自分で守れ、ばかものよ。茨木さんの自戒を込めた呼びかけを、勝手にいいかえると、それはたとえ「細眉を疑え」ということになる。

眉が命、みたいに熱中するのはいい。しかし、だれもがアムロではないのだから、眉毛を抜いて昆虫の触覚のような細い眉をそろってめざすこともない。

ルーズソックスが全盛だったころ、埼玉県のある高校でルーズソックスをはかない女生徒が一人だけいた。ふつうの茶色いソックスの一人は、下級生からまで「茶色」と避難の言葉をおつけられた。それでも、その女生徒は、それを通した。

一つの俳句を思い出した。「夏みかんきらいなものはきらいなり」

衣食足りて流行を知る。それもいい。だが、その流れのなかでも、自前の「浮力」と「イカリ」を持たなければ、ただ漂流するだけだ。

自分に問いかけ、自分で答えを探りだすことだ。

「いま」しかないという言葉は、おそらく将来を、将来の夢を閉ざしているものへの抗議かもしれない。

あしたに夢を持ってない少女たちに、それでも「自分にもっと水やりを」と呼びかけるのは大人の身勝手だろうか。冒頭の詩の省略した一節――

駄目なことの一切を / 時代のせいにはするな / わずかに光る尊厳の放棄

――桃の節句にこの詩を贈ります。

(朝日新聞「社説」一九九八年三月四日)

2 行動する若者たち

ピースボートで出会った若者のことを少し書く。

同乗してくれていた「従軍慰安婦」のハルモニが「この子、ほんとうに熱心だよ。わたしの方が感激したよ。」とほめた中学生がいた。

温厚な、やさしい顔立ちの少年だったが、ハイタニさんとも話がしたいといっていたのに、ついにその時間をとることができなかつた。ごめんなさい。

甲板でジョギングをしていたら、いっしょに走ってもいいですかと寄ってこられたIさん―知的障害のある人々の施設で働いておられた由。暴力こそ加えなかつたけれど同じようなことをしていたとIさんは語る。

してあげる気持ちとか日課に従わせる、なんて暴力といっしょだと。

それがわかってきたのは自分の生き方が、これまで人々と向き合うことを避け、嫌われないように嫌われないようにという生き方で、それを苦痛に感じはじめたときからだという。

防御している姿勢は、施設の人も自分もいっしょだった。自分を取り戻そうと決意したら、はじめて施設の人々の閉ざしていた心が見えはじめたというIさんの目は、きらっと輝いていた。

カンボジアの心身障害者の施設を訪ね、ことばもわからないのに、なんの抵抗もなく気持ちの通じたことがうれしく、そこに新しい自分を発見したとIさんはいうのだった。

船中でお手紙をいただいたYさん―人前で質問したりするのが苦手なので、こうしてお便りさせていただけます。私は小学四年生まで本当に無口で学校では言葉どころか声さえ発することなく帰宅するような子供でした。

ある日、教育実習の若くて優しい女の先生がやってきました。私はその先生が大好きだったのですが話しかけることもできず一ヶ月後、先生は去られました。そして次の日の朝、クラスの生徒それぞれの机の中に小さなメモが入っていました。いてもいなくても同じ存在だと思っていた私の机の中にも果たして手紙はあったの

です。

「笑顔のかわいいYさん。そういえば音楽の時間、一生けんめい聞いてくれましたね。でんでん虫のおどり、また教えてあげますからね。」

もう嬉しくて嬉しくてはねるように帰宅した事を覚えています。それ以来、どんな時でも笑顔でいることができるようになりました。そうするとおもしろいように友達や親友ができ、将来の夢も持てるようになり、今もこうしてピースボートに乗ってアジアの仲間とであう為に港をまわっています。

人生を前向きに生きる人からは、爽やかな風が吹いてくる。

ピースボートの若者たちを見て、しみじみ思うことは、人間は自分を見つめることからしか何もはじまらないのは事実だが、しかし、自分のことだけしか考えられない人はどこか暗く、自分につながるいのちを見つけた人は見違えるように明るくなるということだ。

(灰谷健次郎「いのちまんだら」一九九八年四月八日 家庭欄 朝日新聞)

「考えるヒント」は、渡辺の担当クラスでは、デイベートの授業等の終わった後、一二月末から、次のように三学期末までの間、続けていった。

- 21 一二月二七日 天声人語、22 一二月一日 お金のこわさ、23 一二月三日 多様で厚みのある社会へ、
24 一二月三日 家族の愛をこわさぬよう、25 肝心なのは「入り口」だ、26 一月一日 「青春の研究」
序説、27 一月二二日 殺生の現場は罪の意識忘れた日本人の心の風景か、28 一月二四日 しない自由から
できる自由へ、29 一月一九日 主婦の訳書、30 一月二二日 王室になったIOC。

(三)「考えるヒント」の感想一覧—M・S(女)の場合

生徒M・Sの1～10回の感想は、次のようであった。

- 1 自分の信念を通すことはすぐたいへんだと思う。今はすぐ流されやすいと自分でも思う。自分も、少しは流されていると思う。まわりを気にしてしまっている。何か一つでも自分の信念を通すことができたらと思う。
- 2 自分が優しくしてもらった、とか自分をとり戻そうとしたという経験から、他の人にもやさしく接する心がもてたり、同じ考えをもっている人たちの心が分かったりするのだと思う。
- 3 アメリカの家庭はうらやましいと思う。女の人も働いているけど、家族はとても仲良しという所がだ。日本で両親が働いていると、なぜ、家族の会話が少なくなるのだろう。アメリカの家庭を見習えばいいと思う。
- 4 「タイタニック」は本当にすごかった。お互いに強く信じあっていて、最後まであきらめなかった。女性子供優先の中でケイトは途中でボートを降りてディカプリオのもとに戻った。すごい強い女性だと思った。そういう2人の姿が観客を泣かせ、大ヒットになった理由だと思った。
- 5 自分で考えて行動することはむずかしいことだと思う。3年間野球をすると同時に、その事を教えるとは、中村監督は、とてもすばらしい人生の先生だと思う。言われたままに行動するのは、できるだけやめようと思った。
- 6 もっと日本人は、食べ物を大事にすべきだと思う。日本では食べ物は、どこにでもあるものになりすぎている。食べ物が不足している地域のことを考えなければならぬと思う。将来日本が食料不足になればどうなるだろう。
- 7 今の時代にそんなことが起こったなんて信じられない。国をまかされた人がこのような人だなんてカンボジアの人はかわいそうだ。めちゃくちゃな理由で殺すなんておかしい。この人は自分の国が本当に好きだったのだろうか。
- 8 こういう立ち入り調査をすることはよいことだと思う。もっと推進していけば、安田病院のような最低な病院はなくなると思う。本文にあるように患者の意見を取り入れて改善すれば、もっと安心して病院が増え

ていくだろう。

9 内申書のために、いい子ぶってしまって、からにとじ込ま^{ママ}ってしまった生徒がでてくるような社会になったのはいつごろなのだろうか。昔はそんなことなかったはずだと思う。そういう学校制度はおかしいと思う。もっと本当の自分を評価してくれるような制度に変えられないのだろうか。

10 「悪者たたき」は小さい子のいじめに似ている。少しでも悪者扱いにされている子の方^{ママ}を持つようなことを言えばその子まで悪者扱いされる。でもこのことが社会で起こるといのはおかしいと思う。みな大人なのだし、もっと考えて意見を言ってもいいと思う。子供じゃないのだから、現実がそんなに簡単じゃないことぐらいいわかると思うのに。

M・Sの場合、記事を読むことによる知識・理解（認識）の深まり、広がりとともに、内省・推察・比較・原因追求・批判・疑問などの思考がなされていることが理解される。これは、M・Sの場合にとどまらず、「考えるヒント」の学習における生徒一般の思考活動に重ねて考えられよう。

(四)「考えるヒント」の学習に関する感想

この学習に関して、生徒は、一年間の学習の終わりにまとめた冊子「考えるヒント」に、次のような感想を寄せている。

①考えるヒントで文章をかくのが時間がかかっていたけど、数こなすと少しずつはやく簡潔に書けるようになってきたのでよかった。それに少し自分でも新聞を読むようになってけっこうおもしろいし勉強にもなったのでよかったです。

- ② 考えるヒントが毎時間だるかった。文を書くのがちよつと苦手なのでちよつとはよくなったと思う。(後略)
- ③ 小論文や考えるヒントを今までやってきて、はじめは小論文なんて、どうやって書けばいいんだろうと、困っていたけれど、毎日のつみ重ね、くんれんで、前よりは書ける様になったと思う。(後略)
- ④ 考えるヒントでは、限られた時間で、内容を理解し、感想を書くのは大変でした。書きやすいものもあれば時間ぎりぎりまでかかって書いたものもありました。小論文では、他の人から表価してもらうことにより、考えのちがいがわかり、参考になりました。
- ⑤ 国語の一年間の授業を通じて「考えるヒント」を取り組んだことは、思考するということをあらためて呼び起こされた気がする。このことは副題の発想を耕すことにも関連していると思う。短い文章を読んで、2、3行の感想を書くのも自分の気持ちや感想を表す手段としては良いことだと考えた。／小論文を書いたり、ディベートをする機会は私にとって初めてに等しかったので、不安に思いながらもそれ以上に好奇心が表に出て興味を持って行うことができた。何においても、自分を表現するということは、自らの考えを耕して、その上に存在するんだと思った。
- ⑥ 新聞の切り抜きの記事を読んで書いたりすることによって、小論文も最初よりうまく書けるようになったと思う。これからももっと自分で新聞を読んでいくようにしたい。
- ⑦ 一年間思い返してみると、いろいろな勉強をしたんだと思う。ほとんど毎時間のはじめの考えるヒントのおかげで、自分の意見を短時間でまとめることの練習になりました。だから、小論文も今までは長時間かかっていたけど、すらすら書くことができました。
- ⑧ 考えるヒントでは、毎回、いろんな記事を読んですごく勉強になりました。／小論文は入試の小論文の勉強にとっても役立ちました。
- ⑨ 考えるヒントは、他の人のいろいろな意見が聞けて、おもしろかった。私は、他の人の意見に流されて、なかなか意見がもてなかったけど、いろいろなものを読んできて、少しは、自分の意見がもてるようになったと思う。

⑩考えるヒントでは、先生が幅広い分野から切り抜いてくださっていたので、今まで全く知らなかったことも少し興味を持つようになったりと、おもしろかったし、ためになった。／また、ただ読んで、それで終わりというだけでなく、ちよつとでも思ったことを記録しておくことで、真剣にそのことについて考えることができました。

感想を読むと、「考えるヒント」の学習が、ア. 知識・理解の広がり、イ. 興味・関心の広がり、ウ. 読書（新聞を読む）活動への誘い、をもたらしただけが想像される。また、エ. 思考を促し、意見を持たせることにも働いている。さらに、オ. より簡潔により速く書くことにつながり、カ. 小論文を書くのに役だったと推察できる。しかし、「考えるヒント」の学習が、小論文を書くのに直接役だったと考えることについては慎重でなければならぬ。感想を書くことと、論理的文章を書くことの間には隔たりがあると考えられるからである。「考えるヒント」の学習により、ア. 様々な考えるための材料と考え・意見の集積、イ. 思考力（内省・推察・比較・原因理由追求・批判・疑問）の育成、及び、ウ. 書き慣れによる書く力の伸張、エ. 語彙の広がりをもたらされたことが背景となって小論文がよりよく書けるように感じられたと考える方が妥当であろう。

三 小論文の学習指導の実際

小論文の授業は、三学年三・五組（以上文系）・九組（理系）を対象に、八月二〇日から始まった補充授業の期間中に四時間、二学期九月に二時間をとって行った。小論文の説明に二時間、構成表の作成と執筆に二時間をかけ、書けなかった生徒は、九月の新学期までの課題とした。九月には、相互評価と優秀小論文の選定・

紹介に二時間を取った。提出された小論文は、授業者が添削して返却した。

学習目標として、次の三点を生徒に示した。

①小論文を書くための方法（テーマの発見法・取材法・構成法・原稿用紙の使用法・表現法・推敲法）を理解する。

②小論文を書くための方法を適宜利用し、小論文を書けるようにする。

③互いの小論文を評価しあい、優れた小論文に学ぶ。

小論文を書く方法として、次の（一）～（四）の指導をプリントを用いて行った。

（一）小論文を書く―テーマ（主題）の発見―

一、小論文とはどのようなものか

二、テーマの発見―発想を豊かに

1 生活の場からのテーマ発見

（1）生活経験から―ブレインストーミングを利用して

（2）新聞から

2 発想を広げテーマ（主題）をとらえる方法（注3）

①ブレイン・ストーミング ②分割 ③添加 ④逆転 ⑤比較 ⑥特殊化 ⑦一般化

（二）小論文を書く―小論文の取材―

1 取材の方法

(1) 考え・意見の取材―ブレイン・ストーミングの利用

①付箋紙一枚に一項目で考え・意見を書き抜く ②付箋紙を内容ごとにグルーピング ③構成に基づき
必要な考え・意見を選択活用

(2) 新聞記事からの取材

①記事の収集―インデックス―見出し―リード―本文 ②新聞記事のファイル作り

(3) 本―ブックレット・新書からの取材

①本の題名―②目次―③小見出し―④本文

(4) 年鑑類の利用

①目次・②索引―③資料の利用

2 小論文の取材の実際

(1) ブレイン・ストーミング (2) 新聞記事・本・年鑑などからの取材

3 取材を基にした小論文の構成

(1) 小論文の構成の型(反対意見考慮方・自説証明型・比較考察型)を決める。

(2) 取材したものから必要なものを選び、構成表にその要点を記入する。

(3) 書こうとする小論文の題名をつける。

(4) 小論文のテーマを書きたい順番に二つ、例を参考に、一文で書き、②問題提起(書き出し)の部分
を書く。以上、すべて「小論文構成表」に記入。

(三) 小論文を書く―小論文の構成―

1 私の書きたい小論文のテーマ(主題)

小論文のテーマを三つ、例を参考に一文で書かせる。

テーマ例―小学校は、英語教育よりも人格形成に力を入れるべきである。

2 小論文の構成

(1) 小論文の実際に見られる構成

次の小論文を一つのモデルとして示し、構成について考えさせた。

小学校は人格形成に力を

渡 辺 春 美

文部省が五年後に小学校での英語教育を開始することである。早期教育がなにより重要だということだが、私はここに問題を感じる。

確かに、現行の英語教育制度が十分であると感じる人はいないであろう。中学から大学まで十年間も英語を学びながら、会話一つ満足にできない現状を考えると、習得の時期を早めたいと考えることも分らない。

しかし、長年習っても身につかない原因は何なのか。私はそれは制度の問題ではなく、英語教育の内容と、本人の努力と工夫の不足が原因であると考えます。中学・高校の英語教育は、受験教育に偏り、英語の読解と瑣末な文法事項の学習に授業の大半が費やされている。このような英語教育の現状を変えることなしに、小学校から英語の早期教育を始めても効果は期待できないであろう。また、私の周りには、英語圏で暮らす、あるいは仕事をすると同世代の日本人が多数いる。中学校から英語を習い始めたために全く身につかなかった

という話を一度も聞いたことがない。彼らはそれぞれ当たり前前の努力と工夫をして、一つの外国語を習得しているのである。

以上から、私は小学校での英語教育に反対したい。小学校は専門学校や職業訓練校とは違う。道具としての英語を身につけさせることが、なぜ必要であるのか。人間としての豊かな心の基礎はこの時期に養われるとってよい。初等教育段階では、人格形成にこそ力を注ぐべきではあるまいか。

(2) 小論文の構成

小論文の構成は、おおよそ①③の型であるとし、A・C・Dの文型を用いることによって書くことができる」と説明した。

① 反対意見考慮型

A 問題提起

〃ということ(考え)がある。しかし、〃は問題である(問題がありはしないか)。

B 自説への反対意見

確かに〃とも考えられる。もちろん〃ということ(考え)もあるだろう。

C 反対意見への反論

しかし、〃と考えられる。しかし、その点について、私は〃と考える。

論拠(資料)――まず、〃 また(次に)、〃 さらに、〃

D 結論――自説の主張

したがって、〃すべきであると考える。以上から、〃と考えられる。

②自説主張型

A 問題提起

↑ということ(考え)がある。しかし、↑は問題である(問題がありはしないか)。

B 自説の証明・分析

↑について、私は↑と考える。

論拠(資料)―まず、また(次に)、↑　さらに、↑　最後に、↑

C 結論―自説の主張

したがって、↑すべきであると考える。以上から、↑と考えられる。

③比較考察型

A 問題提起

↑ということ(考え)がある。しかし、↑は問題である(問題がありはしないか)。

B 比較考察

この点については、↑が参考になる。↑に対して、・・・は、↑―となっている。

C 結論―自説の主張

したがって、↑すべきであると考える。以上から、↑と考えられる。

このような構成の型、接続のことは、文型を用いた指導に「枠組み活用作文」(注4)や「枠組み指定作文」(注5)がある。これらは、表現法とともに発想を産み出す方法としてもとらえられている。本実践で用いた構成の型、文型には、問題提起の文型、反対意見考慮型の文型、比較考察の文型があり、それらを利用するこ

とによって新たな発想を生み出すことは可能ではあろう。しかし、ここでは、むしろ、構成の型と文型の、考えを整理し、論証と論の展開を導く働きを利用して小論文を書かせようとした。

(四) 小論文を書く―小論文作成のチェックポイント―

小論文作成のチェックポイントとして、次の1、2を説明した。

1 表記上のチェック

①一文は、できるだけ簡潔にする。とくに複文は、少なくするよう心がける。
 ②漢字は過度に多くしない。かなが過度に多い文章も避ける。「は握」のようなませ書きはしない。自信のない漢字は必ず辞書を引き確かめる。

③指示代名詞は、できるだけ使わない。指し示す内容をもう一度書く方がよい。

④修飾語はできるだけ、被修飾語の近くに置くのがよい。

⑤文の主語が明確かどうかチェックする。必要な主語は入れるようにする。

⑥無駄な接続詞は、できるだけ省く。

⑦二重否定やあいまいな表現は避ける。

2 文章全体のまとまりのチェック

①書こうとしたことは書き表されたか。テーマからずれた部分や矛盾はないか。

②段落ごとに取り上げた内容はまとまっているか。

③段落相互の関係は筋道だっているか。

- ④ テーマを裏付ける、説得力のある具体例やデータがそろっているか。
- ⑤ 書き出しと結びは照応して、効果的であるか。

原稿用紙の使い方については、中西一弘氏・堀井謙一氏編『やさしい文章表現法』（一九九五年三月朝倉書店刊 一六五頁―一六九頁）を一枚のプリントにまとめて示し、指導した。

四 小論文作成の実際

(一) 小論文の作成―M・Sの例

1 私の書きたい小論文のテーマ（主題）

生徒M・Sは、小論文のテーマを、次のようにまとめている。

テーマ1 発展途上国の公害は先進国よりも重大な問題である。

テーマ2 今の情報化社会で人は情報を選ぶべきである。

2 小論文の構成

M・Sは、先の「テーマ2」に基づいて、「テレビと現代社会」と題して、反対意見考慮型にそって、次のように構成を考えている。

小論文構成表

M・S女

- (1) 反対意見考慮型
- 1 題—テレビと現代社会
 - 2 テーマ(一文で書く)—今の情報化社会で、人は情報を選ぶべきである。
 - 3 構成

①問題提起

テレビは今、人々の生活の中で重要な役割をはたしている。
しかし、私たちは必要があつてテレビを見ているのだろうか?と問題を感じる。

②自説への反対意見

確かに テレビはチャンネル一つ変えるだけで、たくさんの情報を得られる。
家にいながら、映画・音楽・バラエティーなどの娯楽をも楽しむことができ
便利である。

③反対意見への反論

しかし、私は、私たちはテレビから一方的に情報をあびせられているのではな
いかと考える。

① 私たち自身に問題がある。↓何もする必要がないから。

② 私たちはテレビに依存している。

③ 子供に与える影響が大きい。

④結論—自説のまとめ

私達自身が、情報を選択し、判断をすべきである。

3 小論文の完成

構成表にしたがって、M・Sは、次のような小論文を完成させている。

テレビと現代社会

M・S

テレビは今、私達の生活の中で重要な役割を果たしている。しかし私達は本当に必要があつてテレビを見ているのだろうか、と問題を感じる。

確かにテレビはチャンネル一つ変えるだけで、たくさん情報を得ることができる。家にいながら、映画・音楽・バラエティーなどの娯楽をも楽しむことができている。便利である。

しかし、私達はテレビから一方的に情報をあびせられているのではないだろうか。私は、それは、テレビを見ている側、つまり私達自身に問題があると考えます。まず、テレビを見る人は何もする必要がないのである。自分で努力せず提供される情報は何でも受け入れてしまっている。完全に受け身なのである。また私たちの生活は、テレビに支配され始めている。私達がどれほどテレビに依存しているかは、テレビがなくなつた場合を考えるとわかるだろう。さらに、子供への影響力も大きい。良い影響も与えるし、悪い影響も与えている。その影響が、子供にいろいろなことを教えるし、又、ダメにもしているのである。

したがって、私たちは、テレビ自体が良い悪いの対象ではないということに気づくべきである。社会に対するテレビの価値を決定するのは、私たちのテレビの使い方なのである。そして、私たちは、ただ漠然とテレビを見て提供されるままに情報を受け取るべきではない。自分自身で情報を選択し、自分自身で判断を下すことが、現代社会において必要とされるべきことではないだろうか。

M・Sは、反対意見考慮型の段落構成、接続のことばと文型とを用いて、構成段階で考えたことを、小論文として書き得ている。M・Sの場合、論の展開にやや具体性がなく、テーマの独自性という点で十分ではない

点があるが、小論文を書く方法としての反対意見考慮型を十分に理解し、それを生かして緊密な構成のもとに小論文を完成させている。

4 小論文の評価—相互批評

書き上げた小論文は、グループごとに相互批評させた。相互批評させるに際しては、次のような評価表を配布して評価させ、気付き・感想を書かせた。また、この評価に基づき、グループで一編を優秀小論文として推薦させた。次に掲げたのは、M・Sの属するグループのM・Sの小論文に対する評価表である。

氏名	評価項目								合計	感想
	① テーマの意義	② テーマの一貫性	③ 書き出し	④ 段落	⑤ 構成	⑥ 結論	⑦ 表現	⑧ データ		
T・Y女	3	3	2	2	2	3	2	3	28	「のよきな気がする」は使わないほうがよい。内容は納得させられるものだった。
I・T女	3	3	2	2	2	2	3	2	26	誰もが知っていている具体例をあげていてわかりやすかった。
M・S本人	3	2	1	2	2	2	2	3	23	一文が長すぎる所があると思った。あまり説得力がなかった。

「評価」とてもよい—3 よい—2 書き改めるとよい—1

相互批評は、活発であった。日頃消極的な男子生徒の一人が、積極的に発言している姿が見られた。グループで選んだ優秀小論文もおおむね妥当であったが、なお文章（論理）の展開の細部については、見落としている点も見られた。相互評価については「他の人から表^マ評価^マしてもらうことにより、考えのちがいがわかり、参考になりました。」（Y・M女）とする感想も見られた。相互評価をとおして、優れた小論文に学ぶことができたかどうかの検証は、今後の課題としたい。

(二) 小論文題目一覧

次に三クラスの題目一覧を掲げる。提出は、三組三一名（未提出七名）、五組三三名（同五名）、九組三五名（同五名）であった。

番	三年三組	題	名	型	番	題	名	型
1		科学を生み出した人間は今、何をすべきか (K・M)		4	16	社会現象になった女子高生 (S・Y)		②
2		国際化が文化を無くす (S・H)		1	17	社会全体で教育に協力を (S・M)		2
3		日本人と稲作 (Z・K)		4	18	マイノリティの人々を受け入れられる社会に (T・Y)		2
4		死刑制度と刑罰の正当性―死刑は刑罰の中に必要か (T・T)		1	19			4
5		クローン動物を作るべきか (N・H)		1	20			3
6		がん患者に対する告知の是非 (M・A)		1	21	ぜいたく過ぎる日本 (T・K)		2
7		エイズ問題について (W・T)		4	22	人生における労働―労働観の転換を― (D・A)		1
8		テレビゲームと子供達 (A・M)		2	23	ゴミの処理法 (T・M)		1
9		ニュースとその影響 (I・T)		4	24	ダイエットの仕方 (N・R)		2
10		「キレル」状態にある若者たちの心 (U・K)		1	25	経済成長と自然保護 (N・N)		1

番	題名	型	番	題名	型
11	国民年金保険制度について (U・C)	①	26	クローン人間 (N・M)	1
12	少子化対策には経済的援助を (K・A)	②	27	患者とコミュニケーションをとるべきか (H・H)	2
13	働く女性 (K・A)	2	28	安楽死は患者の支え (F・K)	1
14	見直すべき宗教の自由 (K・Y)	②	29	外遊びの果たす役割 (F・M)	②
15	老後の人生について (K・S)	1	30	テレビと現代社会 (M・S)	2
			31	スポーツの重要性 (Y・M)	4
				暴力犯罪に対し政府がすべき事 (Y・H)	
				臓器移植前にすべきこと (Y・K)	
1	低出生率と少子化について (U・K)	4	21	学校五日制と休日の増加の活用 (K・C)	1
2	日本の米の市場開放には反対 (E・K)	2	22	「豊かさ」とはいつたいい何なのか (K・M)	2
3	「男は仕事・女は家庭」という考え方について (K・M)	1	23	学校五日制の問題点 (S・M)	2
6	死刑制度と刑罰 (T・T)	①	24	社会の女性 (S・Y)	1
8	外国人労働者の受け入れ―外国人と日本人― (N・Y)	②	25	学校と家庭の教育力の回復 (S・C)	②
10	脳死移植の必要性 (H・Y)	2	26	日本の大学の遊園地化について (S・J)	②
11	アメリカの銃制度について (M・K)	③	27	家族重視型社会と会社重視型社会 (T・K)	1
12	地球の温暖化について (W・S)	②	28	男は仕事・女は家庭という考え方 (T・R)	1
13	日本人の働きすぎ (A・E)	2	29	日本の育児休暇制度 (N・Y)	2
14	日本の教育制度について (A・Y)	②	30	保護の下の犠牲 (N・K)	2
15	「集団主義」と「個人主義」 (I・N)	1	31	世界共通語がない訳 (N・K)	②
16	夢の価値 (I・T)	1	32	がん患者に対する告知 (H・S)	1
17	「外遊びの喪失」 (E・N)	1	33	「外遊び」喪失の影響 (M・K)	2
18	学校五日制による休日の増加 (K・N)	1	34	近ごろの家族というものについて (Y・K)	3

番	題名	型	型番	題名	型
20	人としての生きがいを考えて (K・C)	②	38	結婚適齢期という考え方について (Y・K)	1
19	高齢化社会 (K・E)	1	37	期待され過ぎた子供達 (Y・S)	2
1	人口の増加について (A・T)	1	23	少年犯罪と教育 (F・T)	②
3	プロ野球改善計画 (I・K)	2	24	現在の教育 (M・K)	4
5	マイカーの是非について (U・S)	①	25	「男は仕事・女は家庭」という考え方 (M・T)	1
6	「外遊び」の喪失の影響 (E・T)	2	27	死刑制度は廃止すべきか (M・Y)	②
7	クローン技術の応用 (O・M)	2	28	日本人の悪い考え—いろいろな考えをすべきだ— (Y・H)	②
8	地球の温暖化 (K・T)	4	29	失われつつある家族の絆 (A・R)	2
10	学校週休二日制について (K・M)	4	30	森林破壊に対する知識の必要性 (U・M)	1
11	無題 (K・K)	②	31	教育とは何か (U・Y)	1
12	日本人の働きすぎ (K・T)	4	32	自然破壊について (U・Y)	4
13	「冷戦後」という言葉の意味の説明 (K・T)	4	33	砂漠を緑に (O・M)	1
14	二十一世紀の環境保全 (K・T)	1	34	ごみ問題をどうするか (O・M)	1
15	「安楽死は行われてよいか」 (K・K)	1	35	日本の夫婦 (T・M)	4
16	銃を持つことへの制限 (S・A)	1	36	生徒に対して先生はどうあるべきか (T・Y)	2
17	「エイズ」の知的対処法 (T・H)	4	37	「男は仕事」「女は家庭」という考え方 (H・E)	4
18	核にたよらない平和 (T・Y)	1	38	流行語の中身 (H・Y)	2
20	テレビの功罪 (N・T)	1	39	現代の子どもについて (H・M)	1
21	平和教育の見直し (N・K)	4	40	友働き <small>トモ</small> の夫婦と育児 (H・A)	①
22	日本人の働きすぎ (H・K)	2			

注 ①「型」の欄の番号は、1―反対意見考慮型、2―自説主張型、3―比較考察型、4―その他、②番号に○を付したものは、それぞれの型に乱れの見られるものである。③傍線を付したものはグループ推薦の優秀小論文である。

(三) 小論文の実際

次に、三つの型で書かれた小論文例を各一例ずつ掲げることにする。

① 反対意見考慮型

クローン動物を作るべきか

N・H男

最近、民間牧場でクローン牛を作るのに成功したということである。これからもいろいろな研究を重ね、いろいろなクローン動物を作るということだが、私はここに問題を感じる。

確かに、クローン動物をつくれるようになれば、絶滅寸前の動物が絶滅しなくて済むし、医学界にも大きな利益を与える。絶滅寸前の動物を繁殖させるためにクローン動物を作ると考えることも分からはない。しかし、人間がこんなことをしてもよいのだろうか。まず、遺伝子操作をするなんて人間がやってよい領域を越えていると考える。人間が人工的にまったく同じ物を作るなんておかしいと思う。もし、人間のクローンを作るのに成功すれば、人の命を軽く考えられると思う。そして、人の命を軽く考えるようになれば、頻りに戦争が起るようになるかと考える。また、人工的に同じ形をしたクローン動物を作っても、決して、まったく同じ物を作れないと思う。現に、何頭ものクローン動物を作るのに成功しているが、その動物はすぐに原因不明の何らかの病気か何かにかかって死んでいる。なぜ死んだか原因を見つけれない限り、完璧なクローン動物を作るのは不可能だと考えられる。

以上から、私はクローン動物を作るのに反対したい。前にも書いたが、クローン動物を作るのは人間の領域ではない。絶滅寸前の動物を守ろうと思えば、自然を守るなど環境の方に力を入れるべきだと思う。だから、私はクローン動物を作るべきではないと考える。

②自説主張型

テレビゲームと子供達

A・M女

今やテレビゲームは多くの子供達に楽しまれている。しかし、テレビゲームは子供達に安全と言えるだろうか。

私は、ゲームをすることは危険を秘めていると考える。

まず数年前にアメリカで起きた事件がある。子供がテレビゲームに熱中していた時、突然失神した。原因は、画面を必死に見過ぎたことだった。つまり直接体を害することもあるのだ。

また、暴力的な映像を使ったり犯罪をモチーフにしたテレビゲームが多く出ている。残虐なシーンは子供の心に大きな衝撃と影響を与える。特に敵を攻撃することや殺すことを楽しむゲームは、人を傷つけることを許すようなものだ。小学生や中学生、また時には幼児という精神的に複雑で成長途中の年齢の子供が最もテレビゲームに接する時間が長い。テレビゲームが子供の心の成長を傷つける可能性がある。これはとても恐ろしいことだ。

そのうえ、友達と遊ぶときでも家でテレビゲームをする子供が増えているという。ひどい場合は、毎日テレビゲームで遊ぶ子供もいる。確かに、外で遊ぶよりも手軽に楽しめる。けれども、外で学ぶことは多い。

自然の怖さや豊かさ、町で学ぶ常識。様々なことを知らないことは危険だ。何も知らず、虫や魚を極端に恐れる子供もいるという。このままでは殺伐とした変化のない心を持つ子供が増える恐れがある。

よって、テレビゲームは内容を選んで遊ぶべきだ。たかがゲームであっても、多感な心を蝕む危険がある。また、テレビゲームはやりすぎてはいけない。アメリカで起きた事件のように直接体を傷つける。子供達に必要なことは家の外で遊ぶことなのだ。

③ 比較考察型

人生における労働

D・A女

一般に諸外国と比べ『日本人はよく働く』と言われている。しかし、これはほこるべきことなのだろうか。一九八六年の調査では、全死者中（調査対象一六五二九人）の約十二％が突然死が原因で死亡している。この人達の人生は果たして充実したものであったのだろうか。

戦後、日本人は外国に負けずと、ひたすら働いてきた。確かに生活は便利になり、豊かになったと言えるだろう。しかし今、物は多くあふれかえり、情報はとび交い、意味のない物の開発に時間は費やされている。何のために働いているのかということも見失い、ただただ、社会の流れに流されて働いている人が多いのではないだろうか。今一度考えるべきではないだろうか。人生の価値は何も労働だけにあるわけではない。もつと家族の団らんの時間や、自分の趣味に時間を費やしてもいいのではないか。人生における労働時間をもつと策減し、他のことにも興味をもつ心の余裕を持つべきだと思う。

一方、フランスでは日本よりも所定労働時間は五〇七時間と少ない。仕事が終わわり、夕方カフェで一時間も何もせず、ただ街並みを眺めている人達がたくさんいる。少なくともこの人達の人生の価値は労働するこ

とだけにあるのではないだろう。今の日本にはこんな心の余裕は感じられず、きゅうくつな感じがする。

働くということの原点を、洗い直すべきだと私は思う。何のために働くのかということ、そして、自分の仕事は社会にどういう意味のあることをしているのかということを重視せねばならない。ただただ、社会に押し流されるようにはたらくのではない。今の日本には労働観の転換と、心の余裕こそが必要ではないかと思う。人生における豊かさとは心の余裕の幅にこそあると私は考える。

小論文例①は、これまで表現に課題を抱えてきたN・Hのものである。クローンの製造に反対する二つの根拠の間に微妙に齟齬が見られる。二つ目の根拠の完璧なクローンはいないので反対というのは、完璧であれば賛成できるという論を導きかねないからである。②は、序論・本論でテレビゲーム全体に関わる危険性の指摘を行いつつ、結論でテレビゲームは選んで楽しむべきことが述べられている。論の中心にずれが見出される。③は、数少ない比較考察型の例である。これらの小論文は論に不十分な点の見いだされるものもあるが、反対意見考慮型、自説主張型、比較考察型のそれぞれの構成の型、並びに接続のことばと文型とを用いておおむね自己の主張すべきことをまとめえている。

次に、F・Tの例を紹介する。この生徒はこれまで表現に課題を抱えてきた生徒である。F・Tの小論文はグループ推薦を受けたものの一つでもある。

少年犯罪と教育

F・T男

今日、少年による犯罪が急増している。これには、親のしつけや学校の教育制度が関係していないだろう

か。また、これに対する対策として少年法を厳しくすることで、本当に犯罪防止へとつながるだろうか。

最近、正しいしつけのできない親が増えているという。この前、テレビでゴミを平気で投げ捨てる子供を見た。その子の親は、「大きくなれば自然に身につく。」と言っていた。小さいときに教えられていないのに、大きくなれば急に善悪の判断のできる子になるとでも思っているのだろうか。放任しているだけでは、しつけにならない。

また、親が厳しすぎて反発するケースなど。限度というものが大切だ。これは学校にも当てはまると思われる。どうしてこういった規則があつて、どうしてしてはいけないのか。生徒が完全に納得するような根拠のないものは校則として取り扱うべきではないと思う。

また、議会では少年法を厳しくしようとする動きがあるようだが、これも適切な判断であるとは考えにくい。少年法とは罪を犯した少年少女たちを更正へと導くためのものであるはずだ。それを厳しくしたところで、本当に犯罪が減るだろうか。そして再発が防げるだろうか。鑑別所や少年院での指導を徹底させた方がよほど効果があるのではないだろうか。犯罪を起こした者に対するアフターケアの方が大切だと思う。

この問題は、もはや少年法を厳しくしたところで減少するものではないと思われる。親は公衆道徳や人間道徳を、そして勉強だけでなく、人とのふれ合いの場としての学校づくりをするべきだと考える。

構成表（省略）からも、F・Tが真剣に取り組んだことが理解される。小論文は、親のしつけの問題や学校の教育制度の問題と、少年法を厳しくする問題とが、本論部二段落、三段落で、「また」「また」と二つの接続のことはを用いて並列の関係で述べられるにとどまっている。F・Tの場合、構成表のテーマも、一文で書くべきところが、「現在の少年法の厳格化や教育制度の矛盾点」となっており、テーマ設定の段階から並列が続いていたといえる。結論部では、両者がまとめられてはいるが、並列の問題は、なお解消されていない。授業者は、構成表のテーマ設定の段階で、問題を一つに絞るべきことを指導するべきであった。このような問題

は、小論文の型、接続のことばや文型によって解決するのは難しい。F・Tの例は、八〇〇字程度の小論文を書く場合、主題を一つに絞り、明確化するなどの指導が必要であることを明らかにしている。

次に、O・Mの小論文を掲げる。この生徒も表現力に優れた生徒ではないが、次のような、論の明確な、例示にすぐれた説得力のある小論文をまとめている。

ごみ問題をどうするか

O・M女

ごみ問題は企業や行政の責任であるという考えがある。しかし、企業や行政だけの責任にするのは問題がありはしないか。

確かに、企業がごみの原因となる製品を生産する。人々が製品を消費し、ごみを出す。企業が売り、人々に買わせていると考えると企業に十分責任がある。また、行政はごみ問題の積極的な解決策を実行しない。行政がもっと取り組むべきだという点で、行政にも責任があるだろう。

しかし、私はごみ問題が企業や行政だけの責任でないと考える。ごみ問題の責任は私たち自身にもある。企業は消費者が買わない物は売らない。私たちがごみになるものを買えばごみは増える。そして行政についても同様である。行政というのは私たちの意見が反映される。私たちが問題を訴えかけなかったら対策は行われない。また、私たちの訴えが消極的であれば行政も消極的になる。

実際に、紙パックのリサイクルを例に上げる。紙パックのリサイクルが進展したことは、「全国紙パックの再利用を考える連絡会」の活動と多くの人々の地道な取り組みの結果である。また、野菜果物のトレイがほとんどなくなったのはトレイ問題に一〇年以上取り組んだ消費者団体の活動があったからこそである。飲料缶の飲み口が引きはがし式から押し込み式になったのも、スーパー店頭のリサイクル活動も同様である。さらには、企業の環境情報の公開をめぐることは、環境監査研究会活動がやはりあったのだ。

以上から、ゴミ問題は企業や行政だけの責任ではない。私たちが主体的に行動することによって企業や行政も積極的に解決する努力をするだろう。ゆえに私たち自身のごみ問題への責任は企業や行政と同様に重大であると考える。

おわりに―考察のまとめと課題―

これまで考察したことを、以下に整理して掲げるとともに、課題についてもまとめたい。

1 書くための基盤作り―「考えるヒント」の学習

- ①内省・推察・比較・原因追求・批判・疑問などの思考を生むことが推察される。
- ②知識・理解の広がり、興味・関心の広がり、読書（新聞を読む）活動への誘いをもたらすとともに、思考を促し、意見を持たせることにも働いたと想像される。

③より簡潔により速く書くことにつながった。

- ④小論文を書くための基盤としての、ア・様々な考えるための材料と考え・意見の集積、イ・思考力（内省・推察・比較・原因理由追求・批判・疑問）の育成、及び、ウ・書き慣れによる書く力の伸張、エ・語彙の広がりをもたらされる。

2 書くための方法―の学習

- ①反対意見考慮型、自説主張型、比較考察型のそれぞれの構成の型、並びに接続のことばと文型とを用いておおむね自己の主張すべきことがまとめられた。このことは、小論文指導における構想指導は、展開の型

と、接続のことは並びに文型の指導が有効であることを示唆する。

② 八〇〇字程度の小論文を書く場合、主語を一つに絞り、明確化するなどのテーマ指導を必要とし、それが論を明快にする。

3 小論文の評価

① 相互批評は、積極的な姿勢を導き出した。

② 評価は、評価の観点に沿ってなされ、おおむね妥当であったと思われる。

③ 相互評価を通して優れた小論文に学ぶことができたかどうかについては、検証がなされていない。

4 課題

課題として、①書くための基盤作り、②テーマ発見の指導、③書く技能の育成、④相互学習の場作りなどが見出される。①については、「考えるヒント―発想を耕す―」の学習を基に、書きたい内容の発見と蓄積、書く意欲の育成のための方法を考え、継続的に試みる必要がある。②については、問題意識の喚起と問題把握の方法（見方・考え方・感じ方、ブレインストーミング・分割・添加・逆転・比較・特殊化・一般化）を思考の方法として身に付けさせる指導も必要である。③は、本実践による試みを発展させるために、先行の実践・研究に学びつつ、小論文の典型的な構成の型と文型を見だし、必要な型、接続のことは、文型を明確にして、指導を行うとともに、この方法の有効性を検証したい。また、今回の実践では、誰に向かって書くかという相手意識が希薄であった。この点も技能の一つとして位置づけた指導を行いたい。④本実践では、相互批評による学びの場を設けたが、テーマの発見、構想、推敲の段階等で相互学習の場を設定することも考えられる。生徒が学習の過程で産出すること（もの）を、教材として積極的に活用し、学びあう場を作りたい。ここに掲げ

た課題に取り組むことで、論理的な表現の学習をさらに活性化していくことができよう。

注1 次の項目でアンケートを行った（選択肢等省略）。本文は、この中の12を整理した。

1あなたは日記をつけていますか。2あなたは手紙や葉書をよく書きますか。3あなたは進んで文章を書くことがありますか。4あなたは自分で大事にしまっている文章（文集）などがありますか。5あなたは表現することをどのように思いますか。6あなたは自分の表現力をどのように思いますか。7あなたは表現力をつけたいと思いますか。8小・中・高の表現学習をふりかえり、身についたと思うことを書いて下さい。9小・中・高の表現学習に関することで心に残っていることを書いてください。10あなたは、文章を書くとき、あのように書きたいと思う作家（筆者）や文章がありますか。11文章を書く上で心がけていることを書いて下さい。12文章を書く上で苦手とし、困っていることがあれば、箇条書きで、次に書いて下さい。

注2 ここに紹介、考察するのは、前任の大阪府立和泉高等学校における一九九八年度の授業実践である。

注3 金子泰子氏「小論文の練習」（中西一弘氏・堀井謙一氏編『やさしい文章表現法』一九九五年五月 朝倉書店刊 九二―九五頁参照）

注4 田中宏幸氏『発見を導く表現指導』（一九九八年五月 右文書院刊 一〇九・一一〇頁）

注5 澤田英史氏「論の進め方を学ばせる」（一九九五年五月 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編『自己をひらく表現指導』二二―二三頁）

付記1 本稿は、第四〇回広島大学教育学部国語教育学会（一九九九年八月二一日 於 広島大学教育学部）において、「国語科授業活性化の探究―小論文指導の場合―」と題して口頭発表したものに加筆したものである。

付記2 本実践を基礎・基本の観点から論じたものには、渡辺春美「基礎・基本をおさえた学習指導の試み―「読むこと」・「書くこと」を中心に―」（日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』二〇〇〇年一月号）がある。